

グルダ、デームスと共に『ウィーン三羽鳥』と呼ばれ
フルトヴェングラー、カラヤン、クナッパーツブッシュ、セルなど伝説の指揮者と共演

92歳《ウィーン最後の巨匠》

奇跡の再来日!



ウィーンの音楽史に名を刻む巨匠が5年振りに来日

東京でただ一回だけの公演がヤマハホール(333席)で実現
ウィーン究極の名器、ベーゼンドルファー・インペリアルを演奏

パウル・バドウラ=スコダ

ピアノ・リサイタル

Paul Badura-Skoda Piano Recital

全音楽ファン絶対必聴!!
“一期一会” 究極の一夜が到来!

高貴なるドイツ・プログラム

シューベルト:『楽興の時』 D780 第4、5、6番

シューベルト:『4つの即興曲』 D899

シューマン:『子供の情景』

モーツァルト:ピアノ・ソナタ第14番ハ短調 K.457



生ける伝説の帰還。銀座ヤマハホールは“静かな興奮”で満ちる

2019. 10.22(火祝) 19:00 開演(18:30 開場) ヤマハホール(銀座・333席)

全席指定 一般 8000円 (MCSフレンズ会員7000円) プレミアム席10000円

学生券1500円(10枚限定・23歳以下・当日学生証提示) *MCSフレンズ会員になれば、さらにお得な特別チケットもございます。詳細はMCSのウェブサイトへ(右のQRコードから)

【チケット申込み】マイチケ: <https://myticketnavi.com> MCS 03-3473-2880



【主催】一般社団法人MCSヤング・アーティスト

【後援】オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム、株式会社ヤマハミュージックジャパン ベーゼンドルファー・ジャパン

『古き良きウィーンの香り』がホールを満たす至福 音楽ファン必聴の夕べが銀座で実現

90歳を越えてなお盛んに活動を繰り広げるウィーンの巨匠中の巨匠。戦後「ウィーン三羽鳥」の一人としてフリードリヒ・グルダ、イェルク・デームスとともに活動を開始。フルトヴェングラーやアンセルメなどとも共演した巨匠中の巨匠。ピアノの生ける伝説が再来日。



1927年ウィーン生まれ。1945年ウィーン音楽学校に入学し、2年後オーストリア音楽コンクール優勝。その後スイス・ルツェルンでエドウィン・フィッシャーのマスタークラスを受講するが、これがバドゥラ＝スコダの音楽家としての基盤となる。やがてフィッシャーのアシスタントとなり、フィッシャーの死後もその伝統を引き継いでいった。

1949年、ヴィルヘルム・フルトヴェングラーとヘルベルト・フォン・カラヤンが、バドゥラ＝スコダの並外れた才能に注目し、彼をコンサートに招聘するや、まさに一夜にして世界的な大ピアニストとなった。ザルツブルク音楽祭には衝撃的なデビューを果たし、また1953年のニューヨーク・デビュー・コンサートはまたたく間に全席完売となった。彼のレコードは何年もの間、ピアニストとして発売枚数1位を保持した。

以来、主要な各音楽祭に定期的に出演。ヴィルヘルム・フルトヴェングラー、ヨーゼフ・クリップス、カール・ベーム、ハンス・クナッパertzブッシュ、ヘルマン・シェルヒェン、アルトゥール・ロジンスキー、ロリン・マゼール、ジョージ・セル、サー・チャールズ・マッケラス、サー・ゲオルグ・ショルティ、ヴァイオリニストのダヴィド・オイストラフなどと共演した。

膨大な量の自筆譜や初版のマイクロフィルムを所持しているほか、歴史的楽器のコレクターとしても名高い。1976年、オーストリア政府より「オーストリア科学・芸術功労賞」が授与された。また1978年にはバックハウス以降初となる「ベーゼンドルファー・リング」が贈られた。